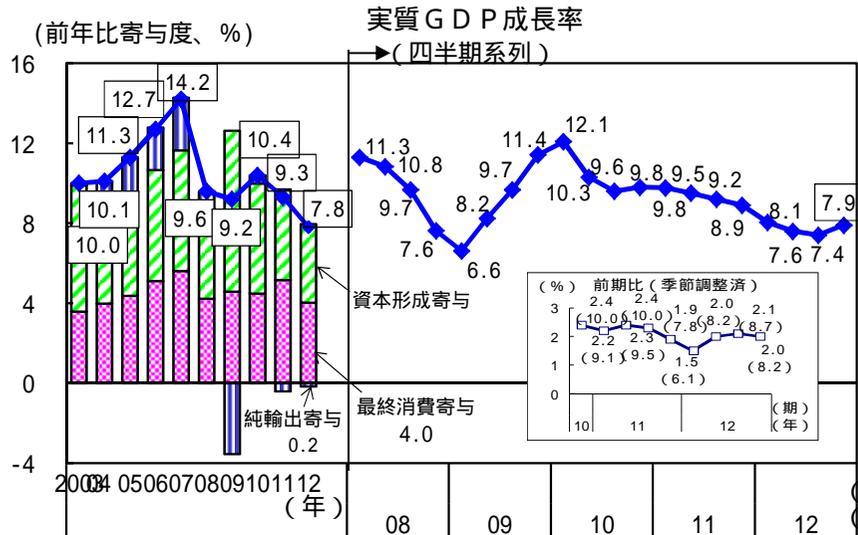


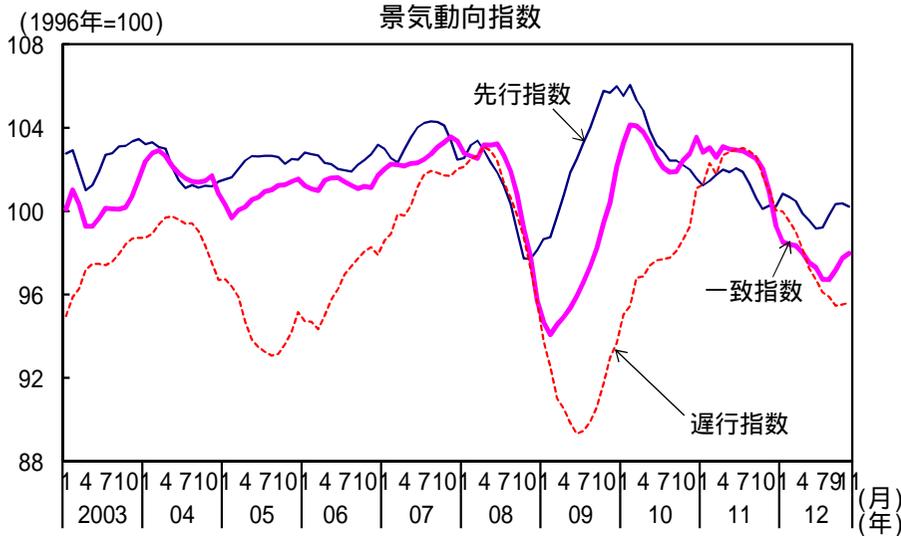
2. アジア地域

中国：

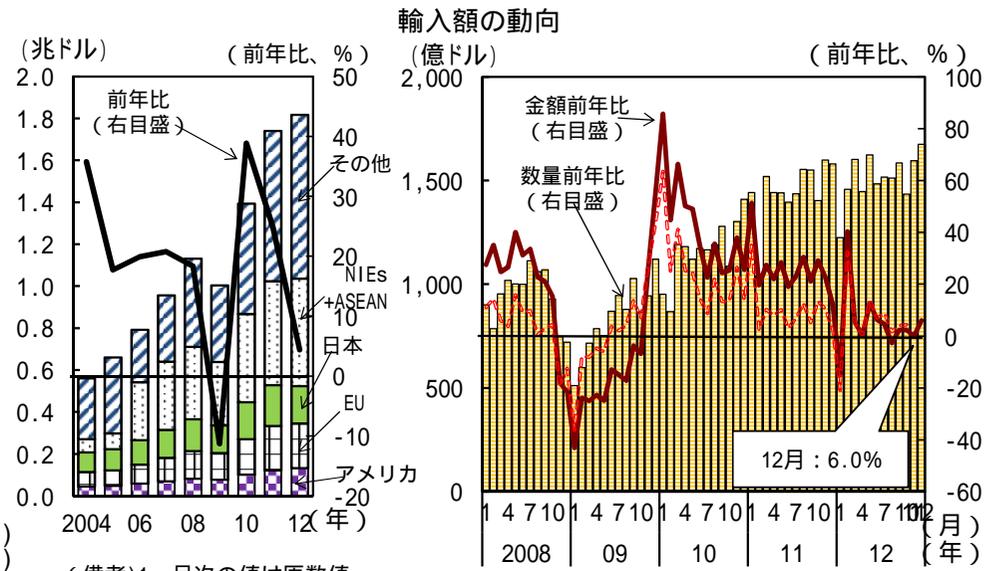
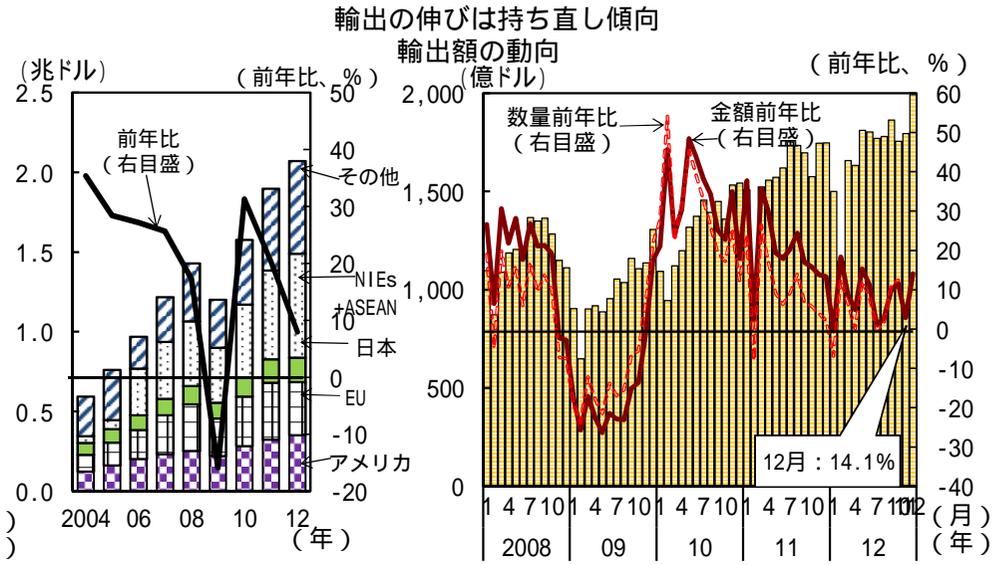
中国では、景気の拡大テンポはやや持ち直している。



(備考) 前期比のグラフの()内の数値は内閣府試算による前期比年率。

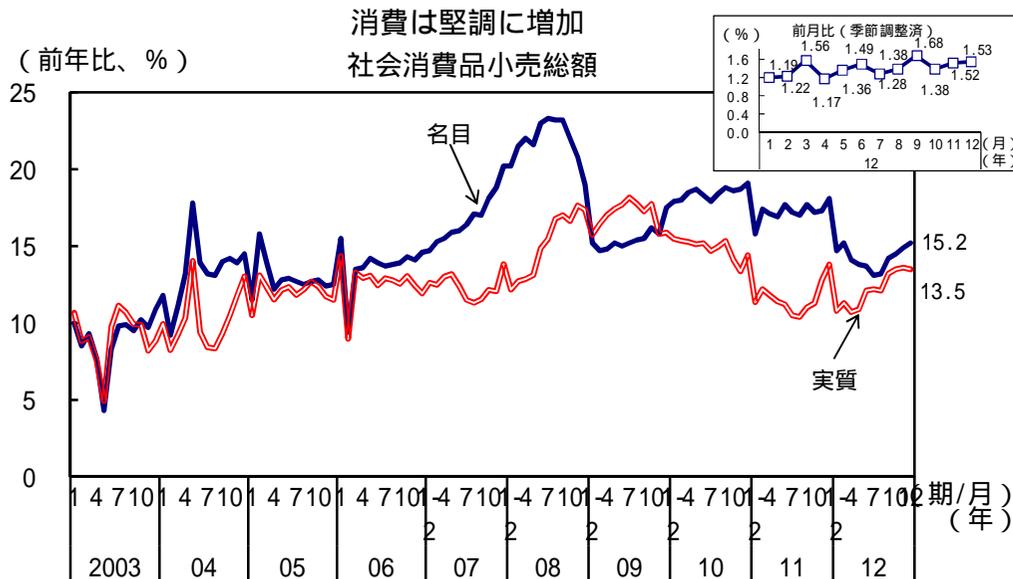


(備考) 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。

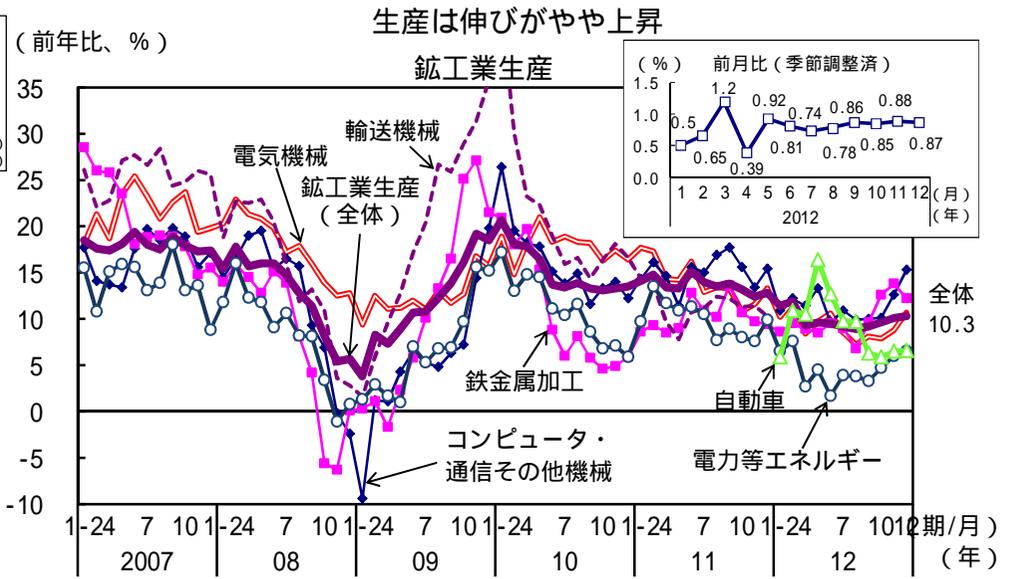


(備考) 1. 月次の値は原数値。

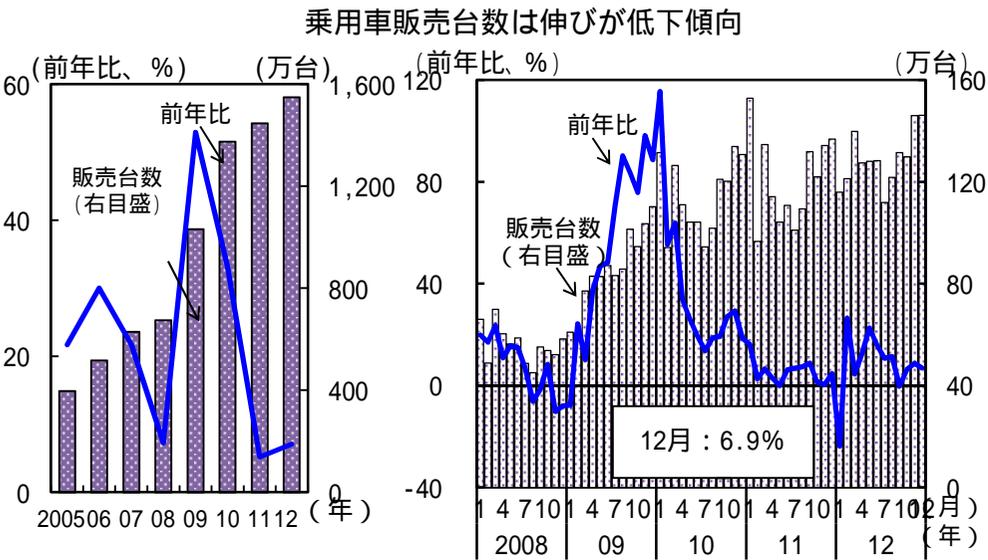
2. 春節(旧正月)休暇は、08年2月6~12日、09年1月25~31日、10年2月13~19日、11年2月2~8日、12年1月22~28日。



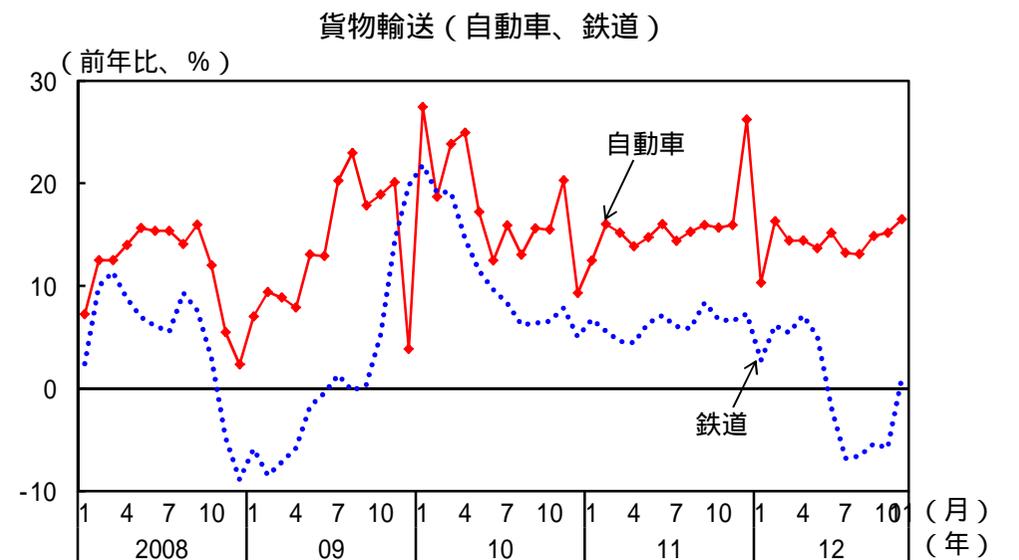
(備考) 1. 実質伸び率は、11年8月までは小売物価指数を用いて試算。9月以降は国家统计局公表値。
2. 中国では、消費刺激策として農村における家電の普及政策(「家電下郷」)の全国展開(09年2月～、11年11月以降段階的に終了)、小型の低燃費車購入に対する補助金支給(10年6月～、11年10月より一部基準を厳格化)を実施している。加えて、12年には省エネ家電購入に対する補助金支給(12年6月～13年5月)等が実施されている。



(備考) 1. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
2. 12年1-2月期より、「輸送機械」が「自動車」と「鉄道・船舶他」に分かれたため、08年～11年12月までは「輸送機械」、12年1-2月からは「自動車」とした。

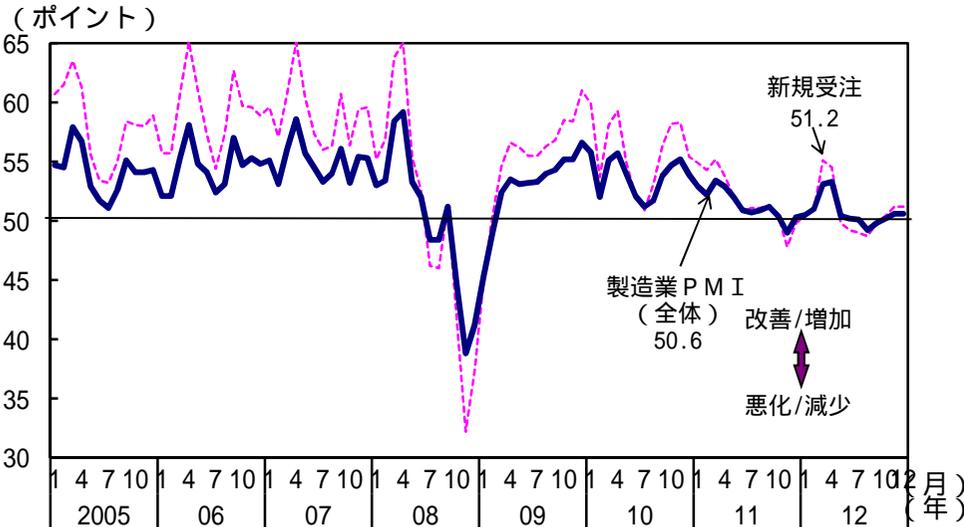


(備考) 春節(旧正月)休暇は、08年2月6～12日、09年1月25～31日、10年2月13～19日、11年2月2～8日、12年1月22～28日。



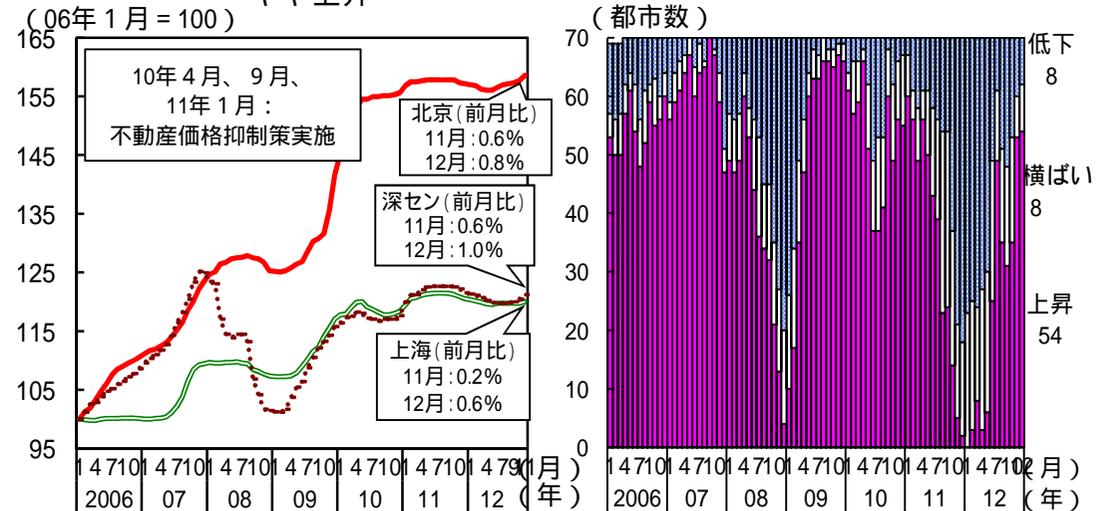
(備考) 輸送量ベースの前年比。

製造業購買担当者指数 (PMI) はこのところ持ち直しの動き



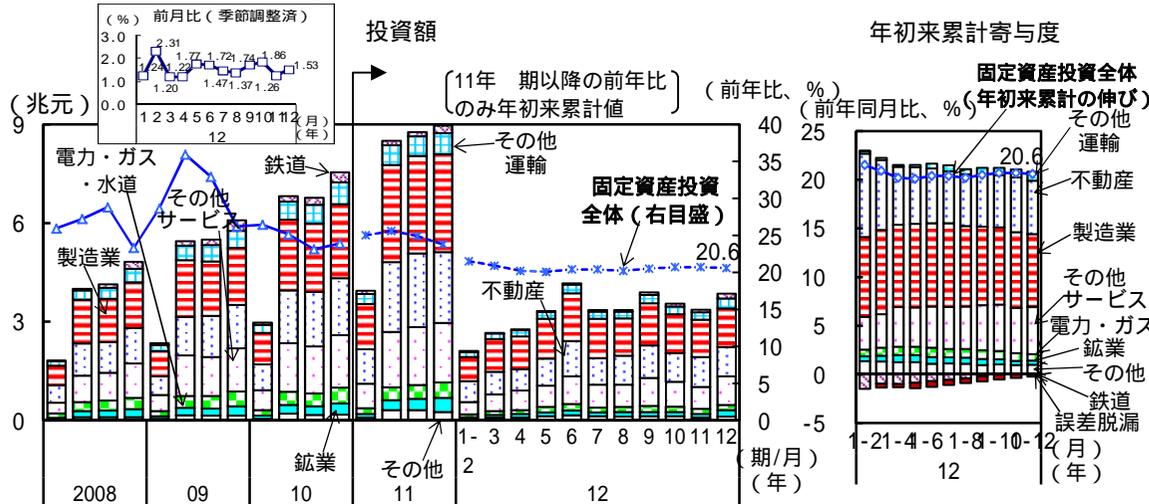
(備考) 製造業PMIは、製造業の業況に関わる11の項目について企業調査を行い、各々が前月に比べてどう変わったのかを集計したもの。製造業PMI(全体)は、生産高、新規受注、原材料在庫、雇用、サプライヤー納期の5つの指標から合成される。50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。

新築住宅販売価格：やや上昇



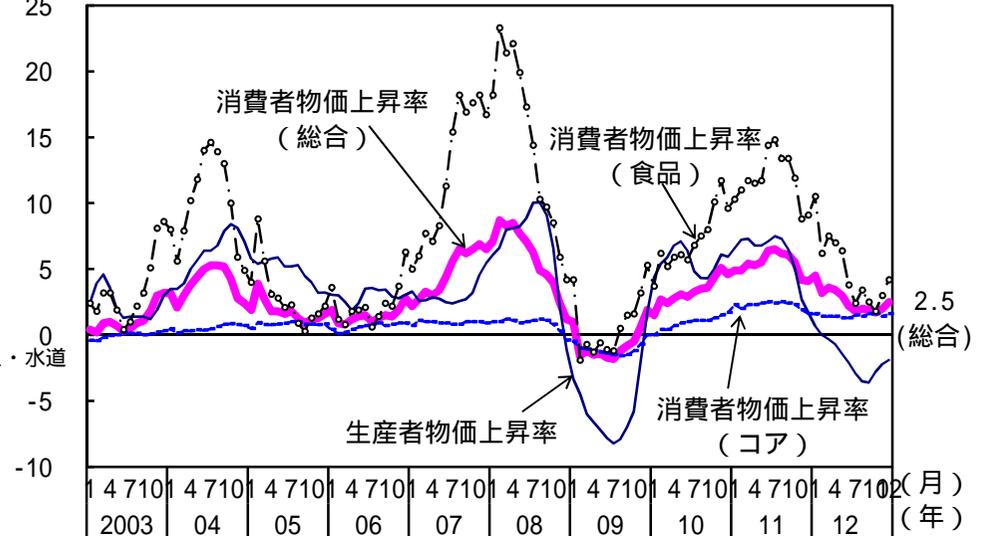
(備考) 1. 価格水準は、06年1月の1㎡当たりの価格を100として指数化。動向は、前月比で、プラスの都市を「上昇」、0.0%の都市を「横ばい」、マイナスの都市を「低下」とした。
2. 11年1月に基準改定があったため、厳密には11年1月前後で接続しない。
なお、全国70都市の平均価格は、11年1月から公表されていない。

固定資産投資は緩やかな伸びとなっている



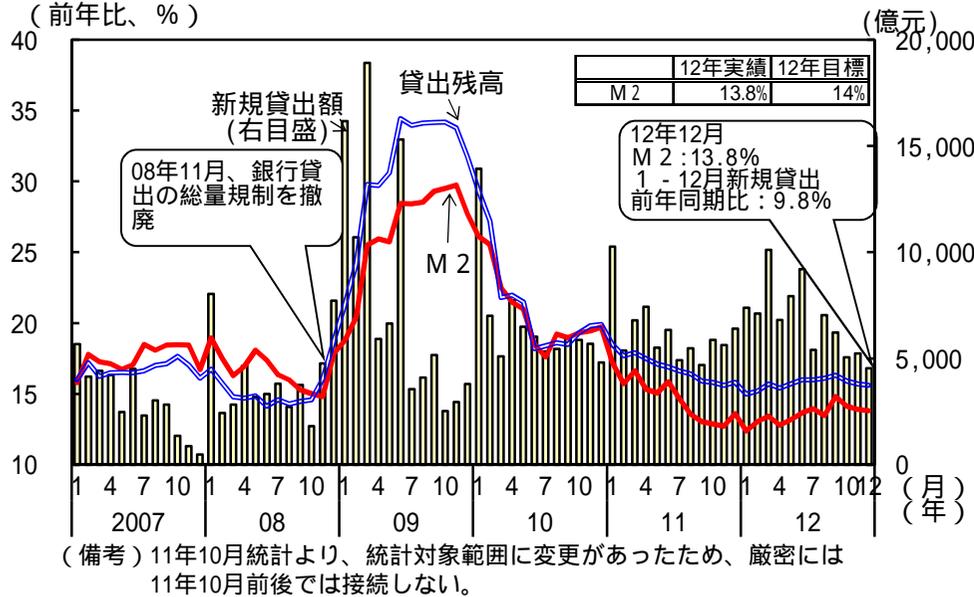
(備考) 1. 11年1-2月期より、統計対象範囲に変更があったため、厳密には11年1-2月前後では接続しない。
2. 当局は累積額のみ公表。四半期及び単月の値は、内閣府試算。

消費者物価上昇率はおおむね横ばい

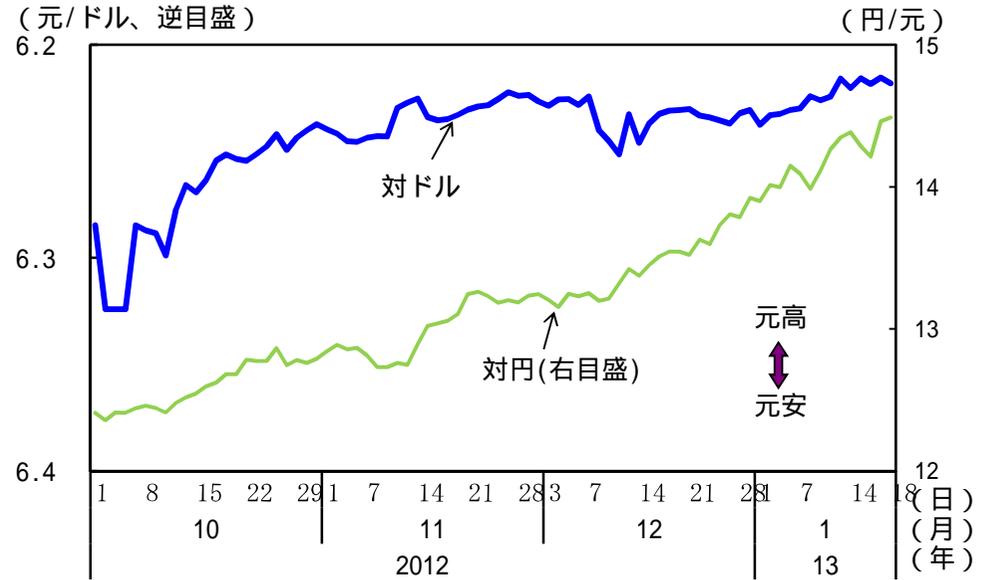


(備考) 1. コア消費者物価は、総合から食品とエネルギーを除いたもの。
2. 中国政府は、12年の目標を4%前後としている。

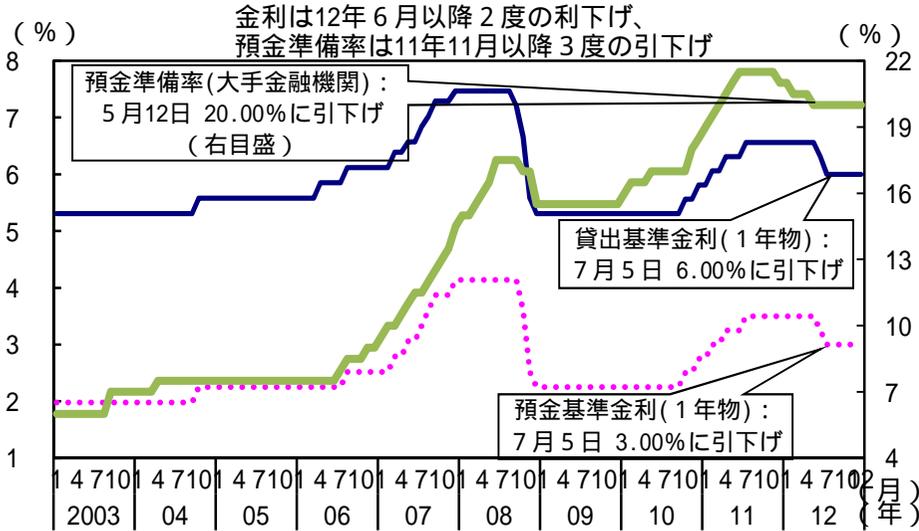
マネーサプライの伸びはおおむね横ばい



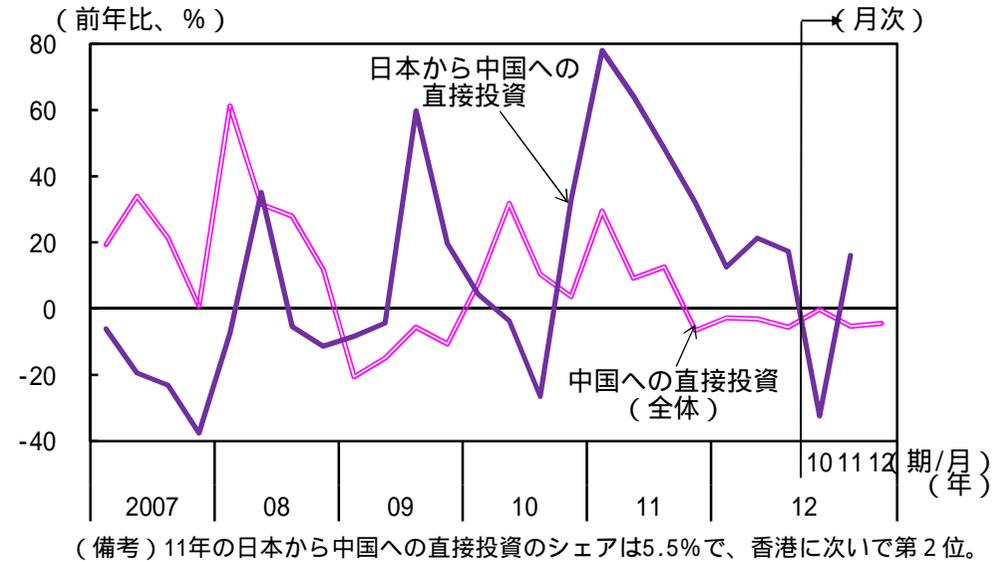
人民元名目為替レート(短期) : おおむね横ばい



金融政策の動向



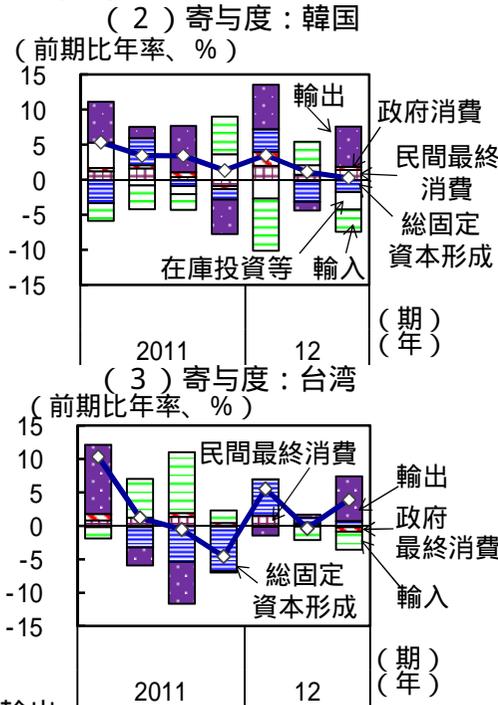
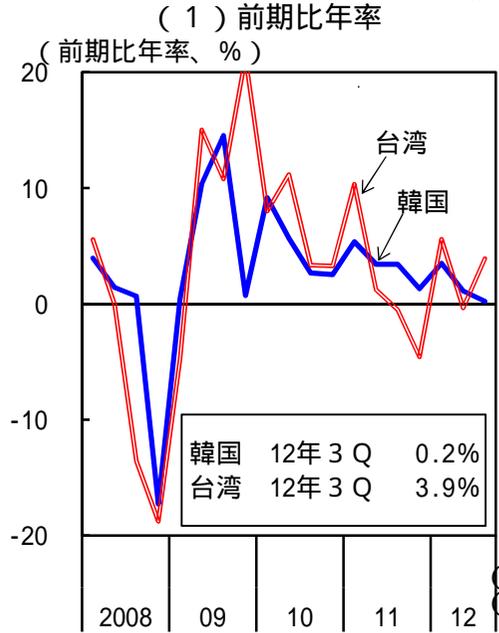
対内直接投資



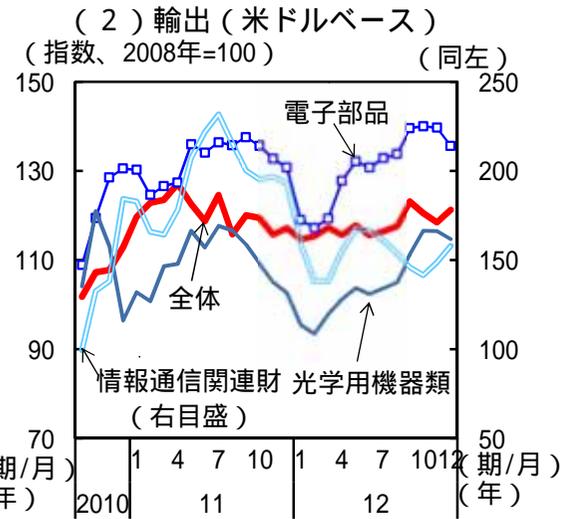
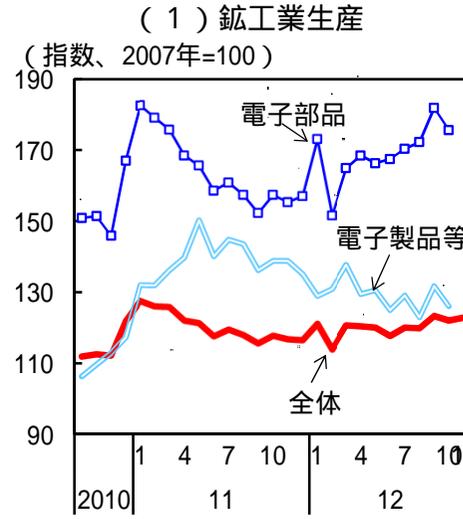
韓国、台湾：

韓国では、景気は足踏み状態となっているものの、このところ一部に持ち直しの動きもみられる。台湾では、景気はこのところ持ち直しの動きがみられる。

実質GDP成長率

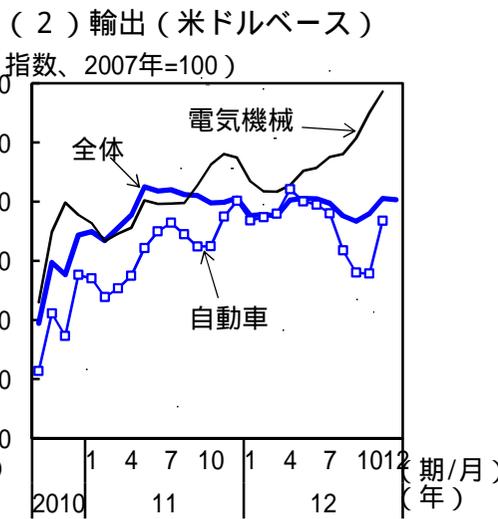
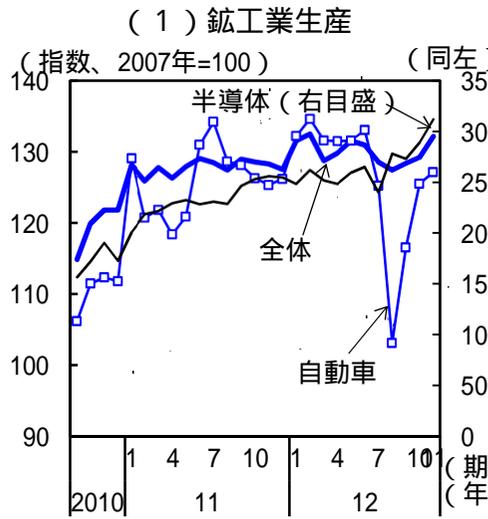


台湾：生産、輸出



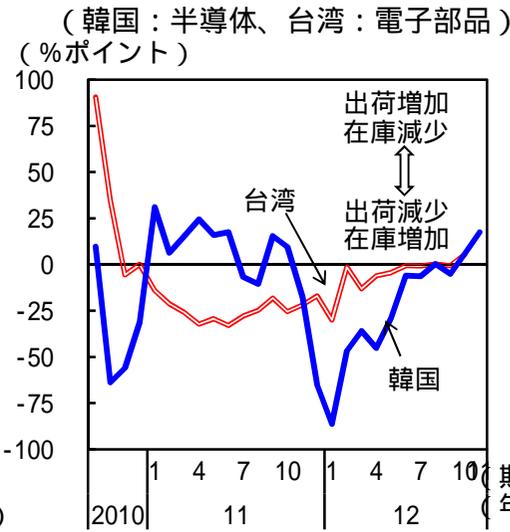
(備考) 輸出総額は季節調整値。輸出の電子部品、情報通信関連財及び光学用機器類は原数値の3か月移動平均値。

韓国：生産、輸出



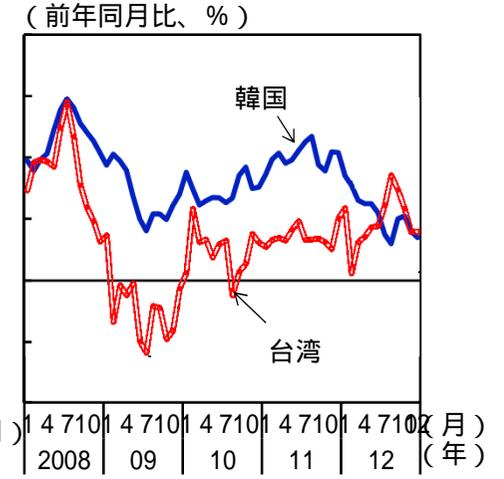
(備考) 輸出の指数は、原数値の3か月移動平均値。

出荷在庫ギャップ



(備考) 出荷在庫ギャップ = 出荷前年比 - 在庫前年比。

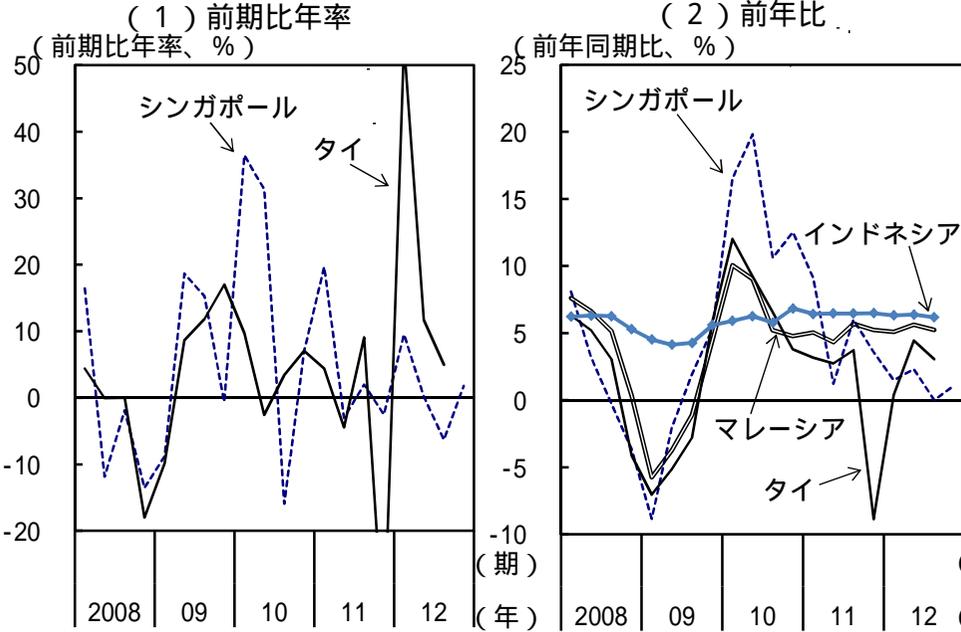
消費者物価上昇率： このところ低下



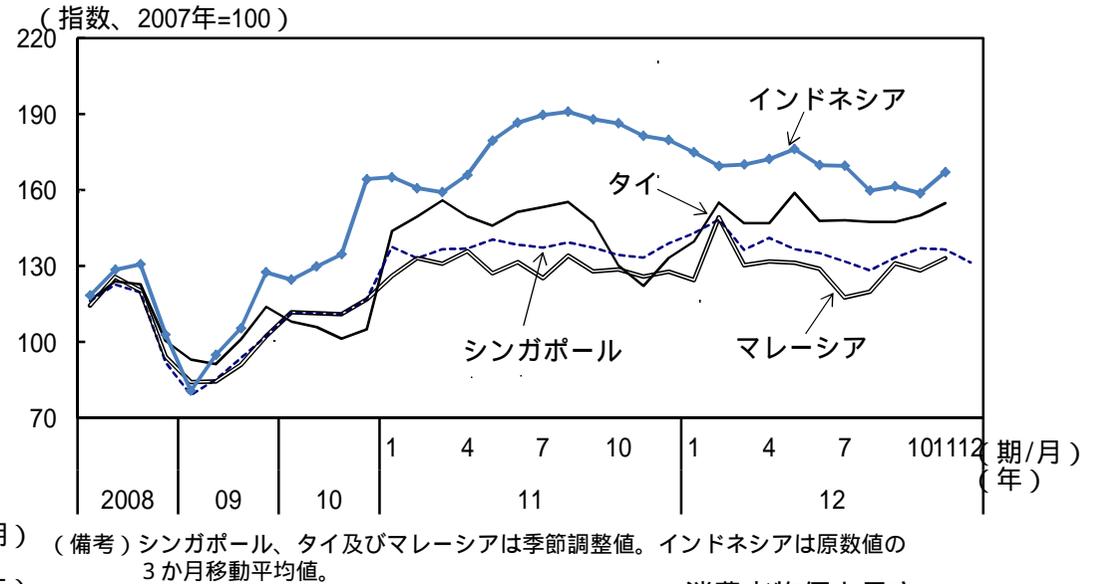
ASEAN地域：

ASEAN地域（インドネシア、タイ、マレーシア及びシンガポール）では、内需を中心として、総じて持ち直しの動きがみられる。

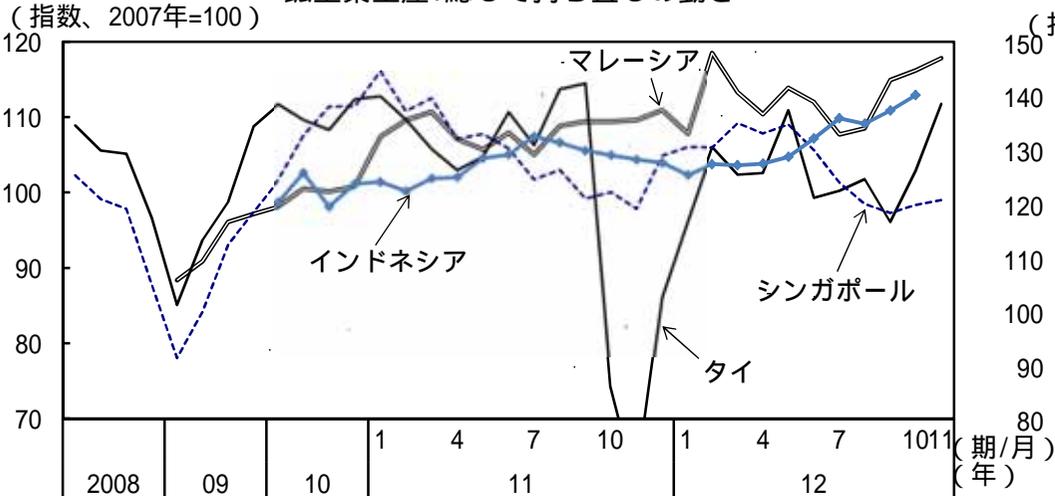
実質GDP成長率



輸出（米ドルベース）：総じて弱い動き

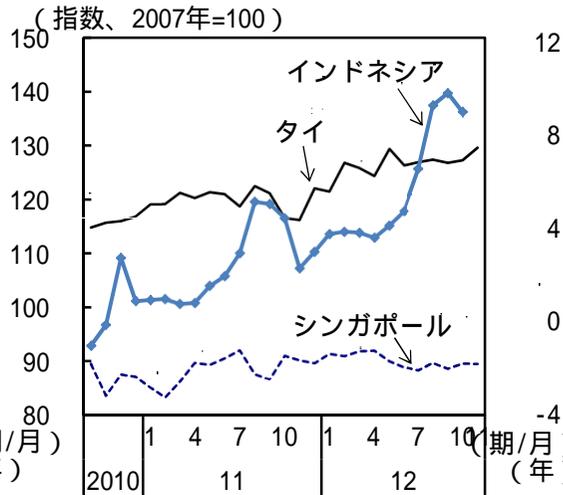


鉱工業生産：総じて持ち直しの動き

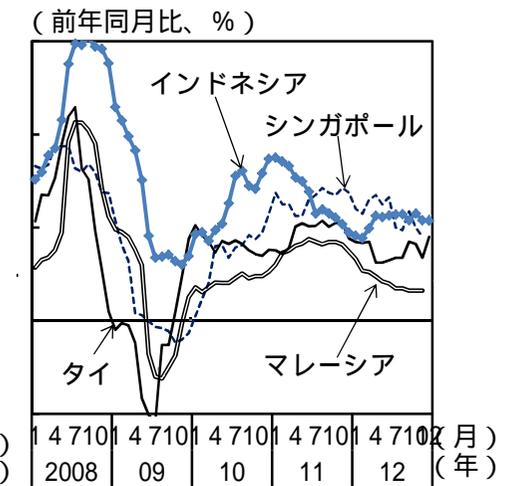


(備考) 1. シンガポール及びタイは製造業の数値。ただし、シンガポールは振れが大きいバイオ・メディカルを除いたもの。
2. インドネシアを除く各国の数値は、季節調整値（マレーシアは05年基準、09年以降のみ公表）。インドネシアは原数値の3か月移動平均値（10年基準、10年以降のみ公表）。

小売売上：総じて堅調



消費者物価上昇率：インドネシアではおおむね横ばい



インド：

インドでは、景気の拡大テンポは弱まっている。

